

DA 現代社会における音楽(教育)の可能性とアウトリーチ活動

——生涯学習社会における音楽文化創造活動と実践——

笹野 恵理子

立命館大学にきて3年目になりました。専門分野は音楽教育です。

私自身の研究テーマは、潜在的カリキュラム研究で、子どもは学校音楽カリキュラムをどう経験するか、というカリキュラム社会学の研究に関心があります。最近では、生涯学習社会における音楽のコミュニティ形成と参加型音楽活動(実践)について関心があるので、参加型音楽活動の企画と実践を課題に、学校などに出向いています。趣味に音楽とは書けませんが、カラオケは趣味です。

1. 専門演習の目標

①自分なりの問題意識をもって、テーマを設定し、課題を追求することができる。

②社会における音楽(文化)活動について、自分なりの問題意識をもって、参加型音楽活動のフィールド(学校、施設、ホール等)を設定し、自らが音楽文化創造活動あるいは音楽を媒介にした社会的実践を企画することができる(アウトリーチ活動)。それをとおして、大学での学びと社会との接点について考えることができる。

2. 専門演習で扱う課題と内容

演習で扱う課題と内容は、①個人レベルでは、生涯学習社会と呼ばれる現代社会における音楽(教育)についての可能性を考えます。社会において生まれてくるさまざまな音楽文化活動の意味やありようを考えます。ここでいう音楽文化とは、芸術としての音楽文化だけでなく、子どもや若者の音楽文化、学校音楽文化などが含まれます。その中で個々人の音楽経験には社会の何が意味や影響を与えるのか、現代社会における学校音楽教育の意味なども考えます。

②各自の課題意識にたって、全体では、アウトリーチ活動の企画と実践を行ないます。アウトリーチは福祉分野などで「手をさしのべる」などの意味で用いられてきましたが、芸術分野では芸術普及活動と呼ばれ、参加者と対等な立場で行われる参加型音楽活動に特徴があります。学校(特別支援学校を含む)などのフィールドを設定し、自分たちの問題意識のもとで活動を企画し実践していくことが大きなテーマとなります。

3. 授業の進め方・内容

学生主体のゼミ運営を基本として考えていますので、具体的な進め方は皆さんと相談の上決めたいと思いますが、個人またはグループでの発表と討議を中心に、大きくは次のように考えています。

3回生前期：各自の問題意識の下にテーマを確定し、課題意識を全体で共有する。アウトリーチ活動(参加型音楽活動/音楽文化創造実践活

動)の基本的知識を習得し、アウトラインを考える。

3回生後期：文献購読やフィールドワークなどを通して、個人の課題意識を深めるとともに、ワークショップ、ミニコンサートなどの企画を具体化し、実践してみる。

4回生前期：より個々のテーマに沿って研究をすすめる。3回生時の企画の反省をとおして、アウトリーチ活動の企画を再度洗練する。

4回生後期：各自のテーマについて総まとめを行う。ワークショップやミニコンサートなどのアウトリーチ活動を実践し、大学における学びと社会との接点について考える。

4. 必要とする知識

特にありませんが、音楽について興味関心があることが必要です。その際、音楽の技能については特に有している必要はありません。

5. 関連する分野・科目・知識

子ども文化論、音楽文化論、学校教育論、社会教育論、若者文化論など、いろいろな分野が関連するかと思います。

6. テキスト・参考書・機材(受講生が標準的に持つもの)

テキストは特に指定しません。使用する場合には、適宜授業で紹介します。

7. 独自に付加する選考方法

なし

8. 受講生に望むこと

音楽に関心がある方の受講をのぞみます。また、主体的、積極的な受講を望みます。フィールドでの活動を計画していますので、自分たちで企画をすすめていける積極的、意欲的な態度と、自分の役割に責任がもてる必要があります。